

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0478 ◆◆◆

18/04/11

【 一部で「ドル大底入れ」囁かれるも、時期尚早か 】

上値が重く、上げ足は鈍いものの、ここ最近のドル/円はドルの戻り歩調にある。そうしたなか、材料的には米中貿易戦争懸念などもあり、大きな流れ、中長期のドル安・円高リスクは継続しているとの見方が有力だが、市場筋の一部からは「楽観論」も聞かれ始めた。つまり、3月26日に記録したドルの安値 104.57円が、「年間のドル安値」あるいは「それに類するレベル」といった指摘になる。そこで、今回の当レターでは、「価格・パターン」と「日柄」の2点から、過去にもレポートした「ドルの底入れ条件」を参考に、その真偽について考えてみたい。

<< 価格・パターン >>

過去に何度かレポートしたように、経験則的に見て「ドル/円の底入れ」には3つの「条件」が存在する。具体的な内容は以下の通りだ。

- (1); 円のマザーマーケットである東京タイムに円の高値(ドルの安値)をつける
- (2); 一番底で底入れせず、必ず二番あるいは三番底をつける
付帯条件: 一番底を記録してから二番底をつけるまでの期間は最短でも1ヵ月を要する
- (3); ロングポジションの投げを受けた市場の断末魔が聞かれる

ドル/円相場が104.57円の安値を記録した3月26日前後の相場について、上記3項目を照らし合わせてみると、実は条件をひとつも満たしていない。敢えて指摘すれば、2月16日安値105.50円が一番底、二番底は3月2日の105.25円、そして三番底が今回の3月26日の104.57円ともいえることで、(2)の条件は辛うじてクリアしているとも言えるかも知れないが、筆者個人は懐疑的だ。とくに、(3)がまったくかすりもしていない雰囲気醸していることが決定的であると思う。

ただし、一連のドル下落が始まった起点である2017年10月高値114.74円からの、大きな下げ幅に対する半値戻し、大雑把に見て110円レベルをクリアに超えていこうなら、「価格・パターン」的にはドルの本格底入れ、ならびに基調転換を疑う必要が出てくる。そのときには、シャッポを脱ぐとともに、素直に謝罪を行い見直しも修正したい。

<< 日柄 >>

以前にレポートした短期から長期波動についてのサイクル・カウンティングについて、最初に指摘しておく。なお、赤字で指摘した部分は、今回新たに書き足した「現サイクルの予想終了日時」になる。

長期波動(66ヵ月)	中期波動(20-25ヵ月)	短期波動(10-15ヵ月)
・11/10/31 75.57	・11/10/31 75.57	・11/10/31 75.57
↓	↓	↓
	・13/06/13 9375(19ヵ月)	・12/09/13 77.13(11ヵ月)
	↓	左同 (9ヵ月)
	・15/08/24 116.15(26ヵ月)	・14/10/15 105.20(16ヵ月)
	↓	左同 (10ヵ月)
・16/06/24 98.65(56ヵ月)	・16/06/24 98.65(10ヵ月)	・16/06/24 98.65(10ヵ月)
↓	↓	↓
2021年ごろ?	2018年夏ごろ?	・17/09/08 107.33(13ヵ月)
		・18/03/26 104.57(7ヵ月)
		(暫定値)

まだまだ当面訪れることのない「長期波動」の底入れはともかくとして、今年、2018年の夏ごろをメドに「短期波動」とともに「中期波動」も底入れする可能性が取り沙汰されている。そして、先でも指摘したように、そのドルボトムが、3月安値の104.57円だったのではないかというわけだ。

もちろん、その可能性を100%否定することはできない。もう少し動静を見極めたい、というのが正直なところ。しかし、飽くまでも現段階での私見を言うなら、サイクル的には前回安値から今回安値までに要した期

間が短すぎるため、可能性は低いのではないかと思う。
短期的に見た場合、ドルはさらなる戻りを試す展開もあるが、それは「飽くまでも調整」。どこかのタイミングで再び下値を試す公算が大きい気がしている。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の**無断転載・転送**もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



FX-newsletter